

第18回議会報告会

議会と語ろう会報告書 (オンライン)

令和3年8月

西脇市議会

| | |
|------|------------------------|
| 自治会 | オンライン会議のため市内各地区からの参加 |
| 開催日時 | 令和3年8月5日(木) 午後7時30分～9時 |
| 参加市民 | 男性 3 人、女性 4 人、計 7 人 |
| 参加議員 | 村井公平、林晴信、浅田康子、東野敏弘、高瀬洋 |

1 部（議会の報告に関する質問）

市民／市営住宅の入居条件緩和について、一人暮らし等の高齢者の場合の保証人はどうするのか。

東野／滞納者があった時期もあり、今でも連帯保証人が2人必要です。なお、市長が認める場合には連帯保証人は不要です。

市民／高齢化が進み家主が介護施設に入所し、常時住む人がいない住居は空家扱いにしても良いのではないかと。

林／法律では、概ね1年以上利用の実態がない住居を空家と定義しています。従って、この定義に当てはまらない住居は、介護施設に入居され空家になっても、住居扱いです。

市民／N i - C o 体操教室は年齢層が広い、同じプログラムでは年代によっては負担が大きいのでは。

浅田／全員同じプログラムではありません。一人ひとりの体力にあったプログラムで行っています。

市民／西脇市の少子化対策は。医療や教育の補助以外に具体的な対策は。

東野／保育料や副食費の無償化等々、出産から子育てまでの支援など手厚くしています。認定こども園化もその一つです。

市民／そのような支援で少子化は解消しているのか。

浅田／支援のあるなしで数字に表すのは困難だと思います。様々な支援をしているというのが現状だと思います。

市民／子育ての親に、もっと支援があれば良い。

東野／はぴいくも含め親同士がコミュニケーションを深められる場の充実を図っています。

市民／子どもに対する助成金や保育料の免除など助かっている。しばざくら幼稚園の閉園がもったいない。

市民／過疎化がすすんで小規模特認校となった双葉小学校が少人数制とすばらしい教育カリキュラムが支持され移住してきたとの話を聞く。

市民／小さな学校を残す議論もしてほしい。

浅田／現在、市が行っている西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議では担当課が各地区に出向いて現状を説明し、地域で議論をしてもらっている。

市民／小学校区について、やすらぎの道から和田町側の一部が地区界では南本町になる。重春小になぜ行けないのか。

文教民生常任委員会／南本町は、「西脇市立学校の通学区域及び就学すべき学校の指定に関する規則」により、西脇小学校区になりますが、所管の学校教育課では、就学先については、相当な理由がある時は、指定された就学校以外の学校に就学させることも可能との見解ですので、当該保護者の方、関係者の方、学校教育課とで就学先について協議して下さい。

市民／議会だよりモニター制度を実施すべきでは。議会のランキング上位はすばらしいが市民との感じ方にかい離がある、陳情や要望は、LINEで市民と議会とのコミュニケーションツールに活用しては。市民との敷居の低い議会を目指すべきでは。

高瀬／議会だよりモニターの準備はしていたがコロナ禍で集まることが出来ませんでした。LINEは若い人が多く利用され意見も集めやすい反面、数が増えすぎると丁寧な対応が出来ないのではないかという不安もあります。LINEをどのように使うか検討する必要があると考えます。議会のHPに意見をもらうこともできます。

2部（自由意見）

市民／「ジーンズソムリエ」「タオルソムリエ」などブランド化に成功している。

ソムリエになるには試験があり、専門知識が必要である

播州織ソムリエ制度を設けてはどうか。播州織の認知度の向上と興味を持つ人材を東京や大阪などの消費地で確保できる可能性がある。

総務産業常任委員会／委員会で協議の後、代表して中川議員に一般市質問（9/24）を行ってもらいました。市行政の答弁としては「播州織ファンを増やすことは大事だが、市としては播州織ソムリエを推進することはない」でした。答弁を受け委員会で再協議の結果、「播州織ソムリエは興味深い取り組みだが、播州織業界での盛り上がりが無い状況では、市行政に取り組み推進の提言を行うべきではない」という意見が大勢を占め、提言は見送りとなりました。

市民／学校給食について、地産地消は行われていると思うが、オーガニック給食を検討実施できないか。これは西脇市のアピールポイントになる可能性がある。

文教民生常任委員会／学校給食センターとも協議しましたが、オーガニックの栽培農業者の確保、一日 3,500 食の食材が賄えるか、食材の価格（値上げになると保護者負担になる）、これらのことを考慮すると対応は難しいと考えます。

市民／黒田庄町小苗にネット環境が整備できていない。以前からの課題だが早期の解決を希望する。

総務産業常任委員会／委員会で協議の後、代表して東野議員に一般市質問（9/24）を行ってもらいました。市行政の答弁としては「将来的には5G通信で対応できると考えている。現在でもホームルーターで対応している家庭もある」でした。答弁を受け委員会で再協議の結果、「市行政答弁で対応できるので本件は解決とする」としながらも、「大多数の子どもたちがWi-Fiルーターを無償貸与されている中、当該地域の家庭だけが高価なホームルーターを自費で用意しなければならないのは不公平ではないか。所得制限をつけてでも機器購入の一部補助は考えられないか」という意見がありましたが、合意には至りませんでした。

閉会前の最後の一言

市民／西脇市はまちづくりに対する様々な計画がしっかりしていると感じている。実際に計画を進めるうえで市民がさらに本市の魅力を理解すべきと考える。

また、学校学習環境規模適正化の目的の説明は非常に不明確である。

市民／オンラインは従来の議会と語ろう会と異なり、他地区の課題が同時に理解できたことが評価できる。

市民／市外から見た西脇市の評価は結構いいが、西脇市民がその良さを理解できていないのが残念。

市民／現役を引退したり、子育てを終わった方々も地域にかかわれるなど生きがいのあるまちになることを希望している。

以上